

# 河井継之助

## ～激戦・今町の戦いと加茂軍議～

平成30年2月22日（木）付けの

『みつけ新聞』に掲載されました！

### 北越戊辰戦争とは何か 稲川氏が見附市で講演

実に迫る」(加茂商工会  
議所主催)が18日、アル

河井継之助研究の第一人者である稲川明雄氏(河井継之助記念館館長)を講師に戊辰戦争の激戦地・今町の戦いや加茂軍議を題材とした講演会「長岡城奪還への確信と町民の苦悩!その真

会津・米沢・桑名諸藩の思惑とは、そして新政府軍、河井軍

カディア小ホールで開かれ、大勢の歴史ファンたちが耳を傾けた。150年前、越後全土を巻き込んだ戊辰戦争の運命に深くかかわった長岡藩士・河井継之助。講演では、長岡城を奪還すべく加茂の地にて会津藩、米沢藩をはじめ奥羽越諸藩が集まって奪還作戦を練った加茂軍議。なぜ加茂だったのか、



なせ加茂だったのか、

の激しい戦闘に巻き込まれ、時代の波に翻弄された今町の凄惨な戦い、越後における戊辰戦争とはいったい何だったのかといった話に触れた。

稲川氏は「もし河井がすぐに会津に行けば、加茂軍議もなく、加茂軍議がなければ今町の戦いもなかっただろう」とし、「当時の日本の人口が約3000万人。北越戊辰戦争の死者数が2〜3000人と言われている。歴史は懐かしむものではなく、真実に近づき残していくことで、次の時代につなげていくもの。当時の人たちが何を思い、どんな国家感を持っていたか考えて行くことが大事」と来場者に伝えた。



当日は見附市をはじめ、長岡市、小千谷市、三条市等から150が参加。



講師 稲川明雄氏  
(河井継之助記念館館長／新潟県長岡市)



講演会終了後には稲川先生の直筆サインを求める聴講者の列ができました。